平和不動産

平和不動産グループ 長期ビジョン「WAY2040」

場づくりの連続で、非連続な成長を遂げる“Bazukuri Company”へ

2024 Stage 1 2026

現中期経営計画の進捗・見通し
非連続な成長へのスタートダッシュ

日本橋兜町・茅場町ブランドの確立、当社史上最大規模となる札幌再開発プロジェクトの始動、大成建設との資本業務提携など、非連続な成長に向けた好スタートを切り、業績は当初計画を大きく上回る見込み。

2026年度	当初計画	業績予想
連結営業利益	140億円以上	▶ 158億円
EPS	135円以上	▶ 174円
ROE	7%以上	▶ 9%程度

2027 Stage 2 2031 2040

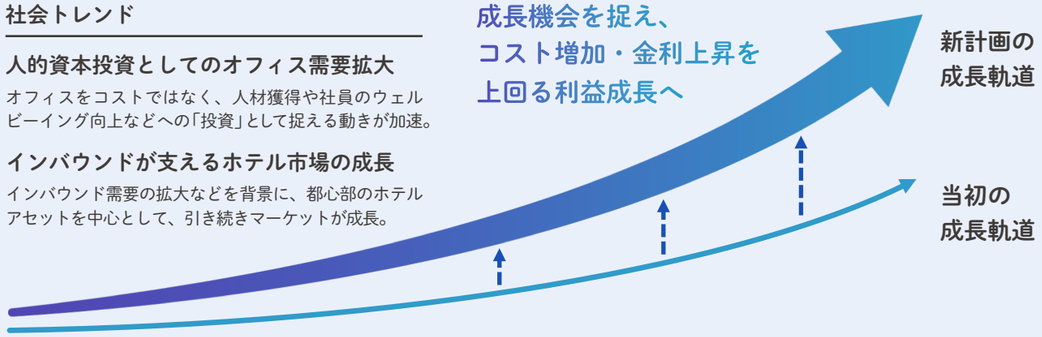
社会トレンド

人的資本投資としてのオフィス需要拡大

オフィスをコストではなく、人材獲得や社員のウェルビーイング向上などへの「投資」として捉える動きが加速。

インバウンドが支えるホテル市場の成長

インバウンド需要の拡大などを背景に、都心部のホテルアセットを中心として、引き続きマーケットが成長。



連結事業利益
450億円以上

当初計画から大幅な上方修正

250億円以上

新中期経営計画（5か年）

BX5 Bazukuri Transformation 5 大胆な変革で、描いた未来を超える

BX-1 全国主要都市での場づくりの展開

再開発プロジェクト「SAPPORO ONE」「北4西3地区第一種市街地再開発事業」を推進し、札幌の都市競争力向上に貢献。さらに京都のホテル開発など、人々を惹きつける場づくりを全国主要都市へ展開。

BX-2 日本橋兜町・茅場町ブランドの発展

街のランドマーク「KABUTO ONE」に続く「（仮称）日本橋茅場町一丁目６地区開発計画」を着工するとともに、国際金融都市・東京を支える金融関連機能の集積を進め、街のブランド価値を発展。

BX-3 賃貸収益・資本回転型事業の拡大

積極的なリーシング・賃料増額改定やホテル収益の成長により、賃貸収益を拡大。資本回転型事業へのシフト・強化を進めるとともに、AMフィー・仲介収益を伸ばし、利益成長と資本効率向上を両立。

BX-4 海外進出による事業ポートフォリオの強化

国内の人口減少など中長期での環境変化を見据え、海外不動産事業へ初めて進出。海外の成長機会を取り込み、収益の多様化と資本効率の向上を図ることで、事業ポートフォリオを強化。

BX-5 ROE10%達成と高水準株主還元の継続

当社の株主資本コストを上回るROE10%以上の達成を目指す。連結配当性向50%程度を基本とし、累進配当を実施。機動的な自己株取得と合わせ、高水準の株主還元を継続。

サステナビリティ経営および人的資本経営の高度化

2050年のGHG排出量ネットゼロを目指すとともに、多様な人材の活躍とAI活用による生産性向上を推進し、サステナブルな成長を支える経営基盤を強化。

経営基盤の強化

計数目標　連結事業利益 290億円以上　EPS 220円以上　ROE 10%以上　投資計画(5年間) 約2,700億円　累進配当・配当性向 50%程度／機動的な自己株取得　政策保有株式 純資産比率 5%程度

Our Purpose　人々を惹きつける場づくりで、未来に豊かさをもたらす